



【今週の暗唱聖句】ヤコブ1:21

心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

●私たちが手にしている聖書が全能の神の言葉であるということは私たちが世界中で最も「強力なもの」を手にしているということです。神の言葉は、人を永遠の刑罰から救い出し、永遠の命を与えることができます。そして御言葉は命が本来の豊かな成長を成し遂げるための糧となるのです。

●しかし神の言葉が人を救い、人成長させる力になるにはそれが、先ず心に植えつけられなければなりません。神はこのプロセスを人間の伝道にゆだねられました。それゆえ、私たちは御言葉の種まきを熱心にするのです。

●もう一つ大切なことは、種を蒔

かれた人が「素直」に御言葉を受け入れる必要があるということです。主の語られた種まきの喩えの道端、岩地、いばら、良い地とはそれぞれ御言葉を聴く四種類の人たちの心を現わしています。道端の人はそうすると、神の言葉を全く聞くことができないのかということではなく、昔道端～今畑の人はいくらでもいます。そして私たちも道端のような人の救いのためにできることがあるのです。それはその人の心が柔らかくなるように、神さまに祈り求めることです。こういう祈りを「とりなしの祈り」と言います。熱心に家族友人知人のために祈りましょう。

【2010年マナの予定】

マナも三年目に入りました。果たしてどこまで教会の皆さんの役に立っているだろうと思いつつ、それでも何らかの「足し」になるように今年も続けます。今年には月ごとにテーマを決めてそのテーマに沿ったワンポイント記事も書き、皆さんの聖書／信仰理解に役立ててもらいたいと思います。変更の可能性も有り次第のように進めます。

1月	教会について	7月	休み
2月	聖霊との歩み／聖化&成長	8月	休み
3月	聖霊との歩み／世界宣教	9月	人間関係／夫婦、子ども
4月	人間関係／赦しに生きる	10月	世の中の思想に関して
5月	霊的戦い／見えざる世界	11月	教派、神学的立場について
6月	霊的戦い／神の武具	12月	主イエスの再臨、終末論

【先週のメッセージより】 エレミヤ36章

神の御言葉の前に立つわたしたち

●エホヤキム王はエレミヤによって語られバラクによって書かれた神の言葉を切り刻み、すべて燃える炉に投げ入れた。今でも人は神の御言葉に対し以下のDで始まる様々な戦いを挑もうとする。



DESPISE 軽蔑する、見下げる

DENY 否定する、認めない

DISTORT 歪曲する、ゆがめる

DISECT 切り裂く、ばらばらにする

DISREGARD 無視する、軽視する

DESTROY 破壊する、こわす

しかし、どんなに人間が逆らったとしても神の御言葉は不動であり、歴史が示す通り、勝ち抜いてきているのは、神の御言葉の方なのである。船の船長が、陸の灯台に向かって進路を譲れ、と命令しても自分が譲るか大破するかを選択肢しかないのと同じなのである。

【教会について（1）】

エクレーシア、コイノーニア

●日本語に「教会」と訳されている元のギリシャ語は「エクレーシア」であることが多く「集会」を意味する。パウロがこのエクレーシアという語を最も多く用い特定の地域の信者の群れや集まりを指して使っている。「エク＝～から」と「カレオー＝呼ぶ」という部分



から成り立っているこの言葉はヘブル語旧約聖書のカハール（呼び集められて集まる行為）とも対応している。旧約聖書で神がアブラハムを呼びだして（イザヤ51:2）イスラエル民族を形成し、また新約聖書でキリストが「わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです」（ヨハネ15:16）と語って教会が誕生したように、キリスト者は神に選ばれ、呼び集められ、一つの共同体とされた人々なのである。

●クリスチャンの集まりを指すためのもう一つ大切な言葉は「コイノーニア」であり、英語でFELLOWSHIP、日本語で「交わり」と訳されている。コイノーニアは「コイノス＝共通」という言葉の派生語であり、緊密さ、分かち合い、共に生きることなど、非常に豊かな意味を持っている。新約聖書の中で19回使われており、神との親しい関係及び、信徒同士の親しい関係を現わしている。これら元々の原語を見て「教会」という言葉のイメージが少々膨らんだであろうか？ ■